

たとえ発音は違っても

司祭 柳時京

私は37歳から日本語を学び始めた。大人の語学勉強は、疑問や文句が多く伸び悩む言い訳との闘いの日々だ。そんな中で一つ気づいたことがある。それは、日本語と韓国語は、文章の順番は概ね同じであるという有りがたい特徴を持ちながら、発音においては大幅に違う点だ。特に、漢字では同じ単語なのに発音は結構違う時が多い。音読みならともかく訓読みとなると想像もつかないケースが多い。「筆」を「ひつ」と読むと「ピル=필」と読むハングルと何となく近い感じだが、「ふで」となるとハングルの「ブッ=붓」とは全然違って来る。

同じ英語なのだが、もとを確かめないと聞き取れない発音も多い。例えば一つを意味する

「one」が日本語では「ワン」になるが、韓国語では「ウォン」、「bus=バス」はハングルでは「ボス」に近い発音だ。あの有名な「ワンピース」さえ最初は「何？」だった。

しかし、読みの違いや母音の捉え方の違いは、あって当然のものなのだ。母音の数の違いなど音声学的な説明もあるが、私はそれで良いと納得

することにした。ある地域の歴史の中で産まれた言葉は、その地の文化や暮らしに影響する。地域や国が替われば、同じものに対して発音の違い

だけでなく捉え方の違いもあるものだ。それぞれ違って良い。むしろその方が常識である。

しかし、捉え方が違うと困るところがある。自分の言葉では違った発音で言っても何の差し支えもない。だが、歴史や過去の事実に対する捉え方が違えば、これは尋常では

ない。私個人が納得する問題ではなく、場合によっては命に関わる問題だからだ。ことに「人と命」という観点からものを捉えていく必要がある。昨今の国や政府の都合次第ではなく、歴史のなかで生きていた一人ひとりの人間を中心に考えるべきである。国籍や言葉の違いを問わず、人間同士として同じく取り扱う努力をしなければいけない。発音の違いでは人は殺されないが、考えの違いは人を殺すからだ。

(ユ シギョン 大韓聖公会司祭

大阪教区宣教協働者)



多民族の現実—聖光幼稚園の現場から

執事 アンデレ 松山健作

京都の幼稚園では、2学期になる9月1日から園児募集の宣伝、保育の見学、入園説明会とバタバタする季節が始まります。その後1ヶ月を経ると10月1日からは、願書受付が始まります。どんな新しい出会いがあるのかな、と楽しみです。

聖光幼稚園の位置する左京区は、意外にもキリスト教主義の幼稚園が仏教系の幼稚園よりも多い地域です。聖公会関連だけでも、聖マリア幼稚園、下鴨幼稚園、聖光幼稚園の3つです。そんなキリスト教主義保育の幼稚園に関心を持って見学をなさるご家族は、9月だけでも60組ほどになります。

左京の地におけるイエスさまのお働きを保護者のみなさんに説明し、「共にお子さまの成長を見守り、育みましょう」と声かけを行なっています。これに賛同してくださる方は、毎年見学者の中の3分の1ほどでしょうか。神さまが与えてくださる新しい出会いに感謝をしながら、歩む毎日です。

さて、聖光幼稚園が位置する左京区松ヶ崎は、特徴的なことが1つあります。それは多民族地域であることです。静かでのどかな地域で、いわゆる高級住宅街が多い場所でもあります。園には大学の関係者が多く、留学や在外研究などで一時的に滞在するご家族が多いのです。

これらの人々は、若手の30代から40代の研究者が多く、お子さんたちと共に左京での生活を始められるというご家庭です。長期の場合もあれば、短期の場合もありますが、どこかで聖光幼稚園は海外対応してくれるという噂を聞いて来られます。そのため、平素から海外からのお子さんをお受けしています。

言葉も違えば、肌の色も、髪の色も異なります。園児がその違いに気づくのは、4歳から5歳と言われます。3歳の園児は、あまりその違いに気がついていても意識しません。インドに中国、ポーランドに韓国、オーストラリアやニュージーラ

ンド、イギリスにイタリアなど、ハーフの園児を合わせると常に10人ほどが海外からの子どもたちが聖光幼稚園に属しています。

このような環境は、非常に私たち大人にとっても、子どもたちにとっても新たな学びとなっています。私たちは、言語、文化、習慣が異なる中で、他者の違いを互いに受け入れ合います。決して日本の習慣を頭ごなしに押し付けるような保育は行いません。

海外からの保護者のみなさんに対応することは、決して簡単な働きではありません。けれども私たちが受け入れなければ、他の幼稚園では対応できないということで入園を断られ、途方に暮れるというケースもしばしばあるようです。海外からの園児を受けることは、確かに私たちの働きを増やすことは間違いありません。さまざまな悩みも尽きません。

その一方で、お互いの違いを知り、異なる他者の存在に気づく時、さまざまな悩みや困難の中に非常に大きな価値ある恵みが隠されていることに気づく瞬間があります。そのような日々の恵みの中で園児たちが主の平安の中で共に生きることができるようにとお祈りしています。

(まつやま けんさく 聖光教会牧師補、
聖光幼稚園園長)



共に囲む食卓 (左手前ポーランド、中央奥中国、
右手前インドの園児たち)

朝鮮三・一運動 100 年を迎えて

司祭 井田 泉

「吾らはここに我が朝鮮が独立国であり朝鮮人が自由民である事を宣言する。これを以て世界万邦に告げ、人類平等の大義を克明にし、これを以て子孫万代に告げ、民族自存の正当な権利を永久に保有させる。」(三一独立宣言書冒頭)

わたしの手元には1919年の三・一運動の際、民族代表として名前を連ねた33人の一人ひとりの写真に説明を付した掛け軸がある。これは私が親しくさせていただいていた在日2世の聖公会の信徒の方が京都から東京に転居されるに際して、私に託して下さったものである。これを見つめていると、当時の人々の苦しみ、祈り、情熱が伝わってくる気がする。そのおよそ半数はクリスチャンであった。

そのひとり申錫九(シンソック)(メソジスト教会の牧師)は、当初この運動に参加すべきかに迷い、毎日明け方ごとに祈って神のみ心を求めたという。彼は2月27日の明け方、このような声を聞いた。「4000年の間伝えてきた国土をお前の代に失ってしまったのは罪であり、見出すべき機会に見出そうと努力しないならば、いっそう罪ではないか」。こうして彼は運動に参加することを決意した。彼のみならず多くのクリスチャンは、日本の支配を脱して民族の自主独立と自由を取り戻すことが神の意思であり召命であると認識し、信仰的決断をもって参加したのであった。

自主、自由、秩序、非暴力を基本姿勢とした独立を求める運動は瞬く間に全土に広がり、日本の弾圧によって数知れぬ犠牲者を出した。韓国の聖公会に属する人たちの中にも、逮捕、投獄、拷問にさらされた人たちがいたことを、私は日韓聖公会の交流の中で何度か知らされた。

現在の大韓聖公会祈祷書(2004)の「特別祈願本祈祷(特祷)」には韓国固有の祝日の祈りが収められているが、その一つは「三一節」のもの



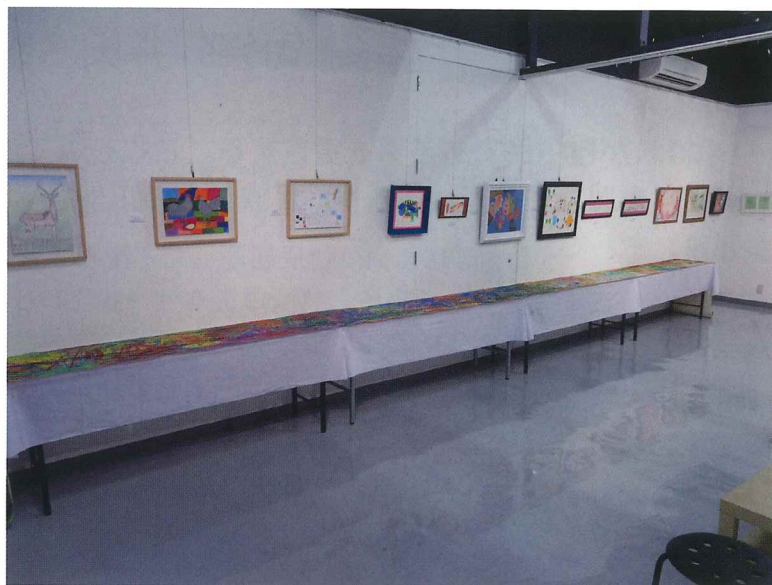
三・一運動当時の女学生の行進

である。祭色は「紅色(赤)」と指定されている。

「主なる神よ、あなたは私たちをすべての悪しき勢力から救い出してください。願わくは、国の独立のために命をささげた先烈たちの高貴な業を繰り返し心に刻み、私たちをしてこの地に自由と平和を実現させ、再びわが民族が奴隷のくびきにつながれることがないようにお守りください。」

過去の聖書を今の私たちに語りかけてくる書、今とこれからの導きの書としてとして聞くのが信仰である。とすれば、100年前の独立運動の歴史から新しく聞き、そこから呼びかけてくる声に耳を傾けることは、私たちの未来に向かう信仰にとってかけがえのない営みである。

(いだ いずみ 奈良基督教会牧師、
元日韓協働委員)



クリンもだん美術展（写真上）

毎年2月に開催しています。聖公会生野センターのクリンもだん美術教室とアートサークル合同の展示会です。
2019年は2月21日～25日、コリアタウンの中にあるギャラリー「渡来」で開催します。

〒544-0034 大阪市生野区桃谷4丁目5番15号
班家食工房2階 生野コリアタウン内 TEL/FAX: 06-6741-1123



のりばん、歌の会

美味しい昼食後、歌の先生と懐かしい演歌で楽しみました。



弘益大学インターンシップ（写真上）

すっかり年中行事になった研修。一月みっちりと日本社会、在日韓国朝鮮人、企業活動の理解に汗をかきます。

センターと生野の風景



韓国語教室

1993年から23年の歴史を経ました。移転前の懐かしい写真。
保育室で行っていました。



台湾青年交流

8月24日、台湾聖公会の青少年がコリアタウンを訪問。「難しい」在日・日韓・日台の歴史を「わかりやすく」解説。学生もそうでしたが引率の先生が真剣に話を聞いていました。



つるのはし跡（写真上・左）

つるのはし（鶴橋）は日本書紀に出てくる最古の名前のある橋です。生野地域にはいにしへの歴史が詰まっています。
（生野区桃谷三丁目17-22 市バス「桃谷駅筋」下車 東すぐ）

アリラン図書館長 宋富子さんの話を聴いて

司祭 北山和民

30 年以上前に大阪で、^{ソングブック} 宋富子さんの一人劇「身世打鈴」に感動したのが最初のご縁でした。18 年ほど前に高麗博物館設立の志に共鳴しお会いして、今回三度目の出会いを。長年ひそかにファンであることを誇りにしていました私は大変うれしく感じています。この講演に来られていた多くの方もそうではないかと思います。今回「文化センター・アリラン」図書館の建設に尽力されているなかでの講演会でした。「文化センター・アリラン」は在日韓国・朝鮮人と日本人が出会い、交流するユニークな図書館です。

今回のお話の中で、「キリスト者の皆さん、全国都道府県に大きくても小さくてもこの図書館を建設しようではありませんか。…力を貸してください。歴史を知り、人権に目覚める時、一人一人の信徒は善と悪を知り、正義と善のために立ち上る勇気を持つのです。一年の賛助会費 1 万円は一日 28 円、キリスト者の 10 パーセント、10 万人が賛助会員になって！」と訴え、感動させるのは、宋富子さんの不思議な力だと感じました。

宋富子さんを囲んで心豊かなひと時をいただき、自身の若かった頃の人権活動にかかわっていたころを思い出させていただいたことなどもとても感謝しています。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」は「水平社宣言」にあります。宋富子さんの熱ある語り、その人生は、まさにこの人は人間の光であると強く感じさせてくれる、そんな講演会でした。それは「歴史を知ること、信仰することこそ暗闇を照らす光」と考えさせるからです。

信仰歴のお話で印象的だったのは、宋富子さん



が、子育て時代に川崎で李仁夏牧師と出会い、「自分を愛すること。隣人を愛するように」との言葉を知ったときのお話でした。保育園の園長を李牧師がしていて、宋富子さんが保護者をしていた時のこと。彼女は牧師の導きで、『自分を愛する』なんて聖書の言葉をまるで初めて聞いたような、なんでもっと早く教えてくれなかったのか」と衝撃を受けたという。在日コリアンの被ってきた差別の数々をお話しされている中でのこの信仰歴の話は、わたしに「信仰の力」を改めて考えさせるものでした。いわゆる「信じて、帰依する」というにとどまらず、「人間の尊厳を自分で戦い守る」心こそ信仰ではないかと感じたからです。

こういう話を聞いたり、生野センターでの情報をいただくたび、考えます。なくなならないヘイトスピーチ、差別事件、たとえば「ネット右翼」と呼ばれる人たちは、どんな出会いをし、どんな属性、何に帰属しているのだろうか、と。そして「アリラン図書館」がこの国に必要とされていると考えます。

(きたやま かずたみ 和歌山聖救主教会牧師)

*この講演会は、大阪教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会の主催で、2018 年 9 月 24 日に大阪城南キリスト教会にて開催されました。

「聖公会生野センターの設立から」その ①

= 最初のプログラム・こみち寄席 =



1992 年に開設された聖公会生野センターは「地域と共に歩むことを願い」をモットーにその働きを始めました。

当初、聖公会生野センターは管区・大阪教区・聖ガブリエル教会・博愛社の協働の元に運営されます。運営委員会はこれを反映して管区事務所総主事（後に宣教主事）、大阪教区教務局長、聖ガブリエル教会の牧師と信徒、博愛社からの人々で構成されました。

センターは ① 建物の中で働く ② 地域の中で働く ③ 教会と共に働く。この 3 つを大切にしてい

こうとなりました。

歴史と伝統のある「聖ガブリエル教会」と新たに始められた「こひつじ乳児保育園」と空間を共有しつつ活動を模索しました。当時は地域活動という言葉はまだ社会的にはなじみがあまりありませんでした。教会や保育園はそのイメージが確立されています。まず地域の人々が下駄履きの気軽さで建物に出入りできることを願って落語会を始めます。住所が生野区小路東であったので小路（しょうじ）をこみちと読んで「こみち寄席」と名付けました。これが聖公会生野センターの最初のプログラムです。1992 年 9 月に始まったこみち寄席は年に 6 回、一度も休むことなく 158 回を重ねました。26 年を越えてすっかり地域に根ざした寄席になっています。その後、美術教室や韓国語教室などのプログラムを始めてセンターにいるんな人が出入りしていくようになっていきました。

聖公会生野センター 2017 年度会計報告（訂正版）

前号掲載の「聖公会生野センター 2017 年度会計報告」には、収入の部の「受託事業収入」が欠落していましたので、訂正版を掲載いたします。申し訳ございませんでした。

区分	勘定科目	2017年度会計
収入	受託事業収入	10,800,500
	利用者負担金収入	3,448,485
	会費収入	1,425,900
	分担金収入	1,260,000
	寄付金収入	3,742,377
	助成金収入等	70,000
	雑収入	257,539
	経常収入計 (1)	20,804,801
支出	事業費支出	4,388,569
	事務費支出	3,778,849
	人件費支出	13,761,071
	積立金	205,000
	経常支出計 (2)	22,133,489
経常活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		-1,328,688

クリスマス献金のお願い

主のみ名を賛美します。

当センターは住民の4人に一人が在日韓国・朝鮮人である大阪生野地域を中心として、日韓教会の交流、すべての人が大切にされる社会の実現をめざし福祉・教育・街づくりなどの活動をしています。

現在館内では、在日高齢者の居場所、障がい者デイサービス、韓国語教室、障がい者美術活動等を行い、生野地域では行政や地域諸団体と共に「人に優しい街づくり」に加わり、聖公会では大阪教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会、管区日韓協働委員会の働きを担っています。

これからも地域の中でのネットワークを大切にしながら聖公会生野センターの働きが多くの人に支えられていることを感謝してやみません。

今後とも皆様のお祈りとご支援をお願いいたします。

2018年 降臨節

NPO法人聖公会生野センター理事会

主教 磯晴久（理事長・大阪教区）司祭 原田光雄（副理事長・大阪教区司祭）／谷川誠（管区宣教主事）／司祭 岩城聡（大阪教区退職司祭）／加納佳世子（大阪聖アンデレ教会信徒）／張聖子（聖ガブリエル教会信徒）／早川育子（こひつじ乳児保育園園長）／司祭 奥晋一郎（八木基督教会）／鈴木憲二（大阪教区後援会副会長）／司祭 奥村貴充（大阪教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会委員長）、司祭 ウイルソン ウォーレン（大阪教区宣教部長）／呉光現（聖公会生野センター総主事）／長野泰信（監事 石橋聖トマス教会信徒）／熊取谷志郎（監事 岸和田復活教会信徒）

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇ 正会員 年額 1口 10,000円
- ◇ 後援会員 年額 1口 3,000円から
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
- ◇ 自由献金・クリスマス献金
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
 - ・銀行振込 三菱 UFJ 銀行 東大阪支店
 - 普通預金 4654965「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL 06-6754-4356 / FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現